

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 平成26年2月14日

【四半期会計期間】 第7期第3四半期(自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日)

【会社名】 株式会社M I Eコーポレーション

【英訳名】 MIE CORPORATION CO.,LTD

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 永井賢治

【本店の所在の場所】 三重県桑名市大字星川1001番地

【電話番号】 (0594)31-6668(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員財務部長 伊藤威広

【最寄りの連絡場所】 三重県桑名市大字星川1001番地

【電話番号】 (0594)31-6668(代表)

【事務連絡者氏名】 同上

【縦覧に供する場所】 株式会社名古屋証券取引所
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | 第6期 第3四半期連結 累計期間 | 第7期 第3四半期連結 累計期間 | 第6期 |
|----------------------------------|------------------------------|------------------------------|-----------------------------|
| 会計期間 | 自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日 | 自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日 | 自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日 |
| 売上高 (千円) | 3,521,769 | 3,027,029 | 4,762,330 |
| 経常利益又は経常損失() (千円) | 38,932 | 156,601 | 6,576 |
| 当期純利益又は四半期純損失() (千円) | 47,429 | 136,517 | 16,836 |
| 四半期包括利益又は包括利益 (千円) | 46,962 | 141,635 | 26,493 |
| 純資産額 (千円) | 811,461 | 759,928 | 884,904 |
| 総資産額 (千円) | 5,824,934 | 5,562,253 | 5,898,422 |
| 1株当たり当期純利益金額 又は四半期純損失額() (円) | 3.93 | 11.32 | 1.40 |
| 潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円) | | | |
| 自己資本比率 (%) | 13.5 | 13.2 | 14.5 |

| 回次 | 第6期 第3四半期連結 会計期間 | 第7期 第3四半期連結 会計期間 |
|--------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| 会計期間 | 自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日 | 自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日 |
| 1株当たり四半期 純損失金額() (円) | 2.17 | 4.08 |

- (注) 1 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 第6期における潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。第6期第3四半期連結累計期間及び第7期第3四半期連結累計期間における潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載していません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について、重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われていません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府、日銀の強力な金融・財政政策を背景に円安・株高が進行し、大企業を中心に企業収益が改善に向かい、設備投資や個人消費が回復傾向にあるなど景気回復に向けた明るい兆しが見え始めています。加えて、2020年の東京オリンピック開催に向けたインフラ整備による需要拡大に期待感が高まっています。しかしながら、円安の進行による原材料価格の上昇や新興国の成長鈍化、消費税率引き上げによる個人消費への影響など、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループを取り巻く環境につきましても、製紙・造船・インフラ整備関連の設備投資案件の受注が今後期待されるものの、民間設備投資は依然として回復しておらず、需要が弱く企業間競争の厳しい状況のまま推移いたしました。そのため、一昨年末から昨年年初以降の急激な円安の影響による仕入コスト上昇分を販売価格に転嫁できていない状況が続いております。

このような状況下で、当社グループは調達コストの低減に加え、製造原価の低減や合理化施策などに努めてまいりました。加えて、プレハブ加工管分野に注力し、高付加価値加工管の強化に鋭意取り組んでまいりました。しかし、需要が低迷しているなかで価格競争は厳しくなる傾向にあり、当社グループの業績は低調な結果となりました。

このため、当第3四半期連結累計期間の連結売上高は3,027百万円（前年同四半期比14.0%減）となりました。売上総利益につきましても、前年同四半期に比べて売上高が減少したことと、売上総利益率が前年同四半期に比べて1.5ポイント減少し、15.1%となったことによりまして、前年同四半期比126百万円減少いたしました。売上総利益率が低下した要因としましては、民間設備投資が依然として停滞しているなかで、急激な円安による輸入製品の調達コストの上昇分を販売価格に転嫁するのが遅れておりますことと、棚卸資産の評価減を27百万円計上したことが挙げられます。この結果、営業損失は106百万円（前年同四半期は営業利益10百万円）、経常損失は156百万円（前年同四半期は経常損失38百万円）となりました。四半期純損益につきましても、特別利益で土地売却益8百万円と法人税等調整額8百万円を計上したことにより、四半期純損失136百万円（前年同四半期は四半期純損失47百万円）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ336百万円減少し、5,562百万円となりました。これは主に、たな卸資産が177百万円増加し、現金及び預金が81百万円、受取手形及び売掛金が417百万円それぞれ減少したことによるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ211百万円減少し、4,802百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が63百万円、社債が59百万円、長期借入金が82百万円それぞれ減少したことによるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ124百万円減少し、759百万円となりました。これは主に、当第3四半期連結累計期間において四半期純損失を136百万円計上したことにより減少したものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 30,000,000 |
| 計 | 30,000,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年12月31日) | 提出日現在 発行数(株) (平成26年2月14日) | 上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名 | 内容 |
|------|---|---------------------------------|------------------------------------|--------------|
| 普通株式 | 12,090,000 | 同左 | 名古屋証券取引所 市場第二部 | 単元株式数 1,000株 |
| 計 | 12,090,000 | 同左 | | |

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式 総数増減数 (千株) | 発行済株式 総数残高 (千株) | 資本金増減額 (百万円) | 資本金残高 (百万円) | 資本準備金 増減額 (百万円) | 資本準備金 残高 (百万円) |
|--------------------------------|------------------------|-----------------------|-----------------|----------------|-----------------------|----------------------|
| 平成25年10月1 日～ 平成25年12月31日 | | 12,090 | | 500 | | 125 |

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成25年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年9月30日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|-------------------------|----------|------------------|
| 無議決権株式 | | | |
| 議決権制限株式(自己株式等) | | | |
| 議決権制限株式(その他) | | | |
| 完全議決権株式(自己株式等) | (自己保有株式) 普通株式 19,000 | | |
| | (相互保有株式) 普通株式 13,000 | | |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 11,964,000 | 11,964 | |
| 単元未満株式 | 普通株式 94,000 | | 1単元(1,000株)未満の株式 |
| 発行済株式総数 | 12,090,000 | | |
| 総株主の議決権 | | 11,964 | |

(注) 「完全議決権株式(その他)」の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が、1,000株含まれております。また「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数1個が含まれております。

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

| 所有者の氏名 又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義 所有株式数 (株) | 他人名義 所有株式数 (株) | 所有株式数 の合計 (株) | 発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%) |
|--------------------------------|---------------|----------------------|----------------------|---------------------|------------------------------------|
| (自己保有株式) 株式会社M I E コーポレーション | 桑名市大字星川1001番地 | 19,000 | | 19,000 | 0.15 |
| (相互保有株式) 株式会社M I E テクノ | 桑名市大字星川1001番地 | 13,000 | | 13,000 | 0.10 |
| 計 | | 32,000 | | 32,000 | 0.26 |

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成25年10月1日から平成25年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、かがやき監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成25年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日) |
|---------------|---------------------------|-------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 645,668 | 564,133 |
| 受取手形及び売掛金 | ^{2, 4} 1,319,723 | ^{2, 4} 902,538 |
| たな卸資産 | 791,249 | 968,869 |
| その他 | 38,963 | 53,791 |
| 貸倒引当金 | 2,791 | 2,552 |
| 流動資産合計 | 2,792,812 | 2,486,779 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物(純額) | 360,558 | 346,584 |
| 機械装置及び運搬具(純額) | 59,403 | 93,240 |
| 土地 | 2,484,201 | 2,435,609 |
| その他(純額) | 50,071 | 42,824 |
| 有形固定資産合計 | 2,954,234 | 2,918,259 |
| 無形固定資産 | 10,767 | 9,706 |
| 投資その他の資産 | ¹ 140,349 | ¹ 147,266 |
| 固定資産合計 | 3,105,351 | 3,075,232 |
| 繰延資産 | 258 | 241 |
| 資産合計 | 5,898,422 | 5,562,253 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | ⁴ 587,380 | ⁴ 523,551 |
| 短期借入金 | ³ 2,607,130 | ³ 2,680,100 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 246,063 | 185,253 |
| 未払法人税等 | 6,427 | 1,993 |
| 賞与引当金 | 1,000 | 6,427 |
| その他 | 162,592 | 163,938 |
| 流動負債合計 | 3,610,593 | 3,561,264 |
| 固定負債 | | |
| 社債 | 280,000 | 221,000 |
| 長期借入金 | 288,597 | 205,734 |
| 再評価に係る繰延税金負債 | 667,293 | 658,351 |
| 退職給付引当金 | 76,389 | 71,303 |
| その他 | 90,645 | 84,672 |
| 固定負債合計 | 1,402,924 | 1,241,061 |
| 負債合計 | 5,013,518 | 4,802,325 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成25年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 500,000 | 500,000 |
| 資本剰余金 | 226,400 | 226,400 |
| 利益剰余金 | 838,501 | 958,273 |
| 自己株式 | 3,675 | 3,762 |
| 株主資本合計 | 115,777 | 235,635 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 2,943 | 6,552 |
| 土地再評価差額金 | 960,344 | 943,598 |
| 為替換算調整勘定 | 9,086 | 18,151 |
| その他の包括利益累計額合計 | 972,374 | 968,302 |
| 少数株主持分 | 28,307 | 27,261 |
| 純資産合計 | 884,904 | 759,928 |
| 負債純資産合計 | 5,898,422 | 5,562,253 |

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日) |
|--------------------|--|--|
| 売上高 | 3,521,769 | 3,027,029 |
| 売上原価 | 2,937,802 | 2,569,659 |
| 売上総利益 | 583,966 | 457,369 |
| 販売費及び一般管理費 | 572,975 | 564,039 |
| 営業利益又は営業損失() | 10,990 | 106,669 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 109 | 109 |
| 受取配当金 | 2,569 | 1,232 |
| 設備賃貸料 | 4,870 | 4,505 |
| その他 | 2,405 | 2,769 |
| 営業外収益合計 | 9,955 | 8,617 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 38,290 | 35,071 |
| 手形売却損 | 8,043 | 9,059 |
| 為替差損 | 3,397 | 6,153 |
| その他 | 10,147 | 8,263 |
| 営業外費用合計 | 59,878 | 58,548 |
| 経常損失() | 38,932 | 156,601 |
| 特別利益 | | |
| 土地売却益 | - | 8,907 |
| 投資有価証券売却益 | - | 2,849 |
| リース債務解約益 | 1,703 | - |
| 特別利益合計 | 1,703 | 11,756 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | 1,624 | 47 |
| 投資有価証券評価損 | 1,105 | - |
| 特別損失合計 | 2,730 | 47 |
| 税金等調整前四半期純損失() | 39,958 | 144,891 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 9,930 | 5,498 |
| 法人税等調整額 | - | 8,942 |
| 法人税等合計 | 9,930 | 3,443 |
| 少数株主損益調整前四半期純損失() | 49,889 | 141,448 |
| 少数株主損失() | 2,460 | 4,931 |
| 四半期純損失() | 47,429 | 136,517 |

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日) |
|--------------------|--|--|
| 少数株主損益調整前四半期純損失() | 49,889 | 141,448 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 2,646 | 3,609 |
| 土地再評価差額金 | - | 16,746 |
| 為替換算調整勘定 | 280 | 12,949 |
| その他の包括利益合計 | 2,927 | 187 |
| 四半期包括利益 | 46,962 | 141,635 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 45,239 | 140,589 |
| 少数株主に係る四半期包括利益 | 1,722 | 1,046 |

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

| | 前連結会計年度 (平成25年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日) |
|----------|-------------------------|-------------------------------|
| 投資その他の資産 | 7,900千円 | 7,900千円 |

2 受取手形割引高及び受取手形裏書譲渡高

| | 前連結会計年度 (平成25年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日) |
|-----------|-------------------------|-------------------------------|
| 受取手形割引高 | 666,720千円 | 918,147千円 |
| 受取手形裏書譲渡高 | 50,490 | 52,339 |

3 当社グループは、運転資金等の効率的かつ機動的な調達を行うため、取引銀行11行と当座貸越契約を締結しております。これら契約に基づく当第3四半期連結会計期間末の借入未実行残高は次のとおりであります。

| | 前連結会計年度 (平成25年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日) |
|------------|-------------------------|-------------------------------|
| 当座貸越極度額の総額 | 2,520,000千円 | 2,450,000千円 |
| 借入実行残高 | 2,125,500 | 2,229,000 |
| 借入未実行残高 | 394,500 | 221,000 |

4 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

| | 前連結会計年度 (平成25年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日) |
|------|-------------------------|-------------------------------|
| 受取手形 | 3,226千円 | 2,623千円 |
| 支払手形 | 25,302 | 12,238 |

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び前第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及び負ののれん償却額は、次のとおりであります。

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日) |
|----------|--|--|
| 減価償却費 | 49,968千円 | 45,115千円 |
| 負ののれん償却費 | | |

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

当社グループは、継手事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| 前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日) | | 当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日) | |
|--|--------|--|---------|
| 1株当たり四半期純損失金額() | 3円 93銭 | 1株当たり四半期純損失金額() | 11円 32銭 |

(注) 1 前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間における潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失()の算定上の基礎

| 項目 | | 前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日) |
|------------------------------|----|--|--|
| 四半期純利益又は四半期純損失() | 千円 | 47,429 | 136,517 |
| 普通株主に帰属しない金額 | 千円 | | |
| 普通株式に係る四半期純利益又は 四半期純損失() | 千円 | 47,429 | 136,517 |
| 普通株式の期中平均株式数 | 千株 | 12,058 | 12,057 |

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年 2月14日

株式会社M I E コーポレーション
取締役会 御中

かがやき監査法人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 稲垣 靖 印

代表社員
業務執行社員 公認会計士 奥村 隆志 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社M I E コーポレーションの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社M I E コーポレーション及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。